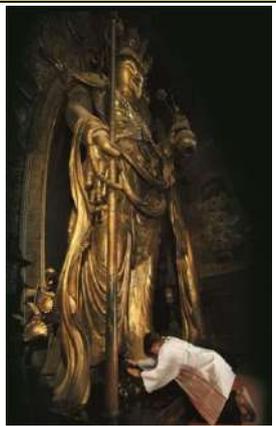
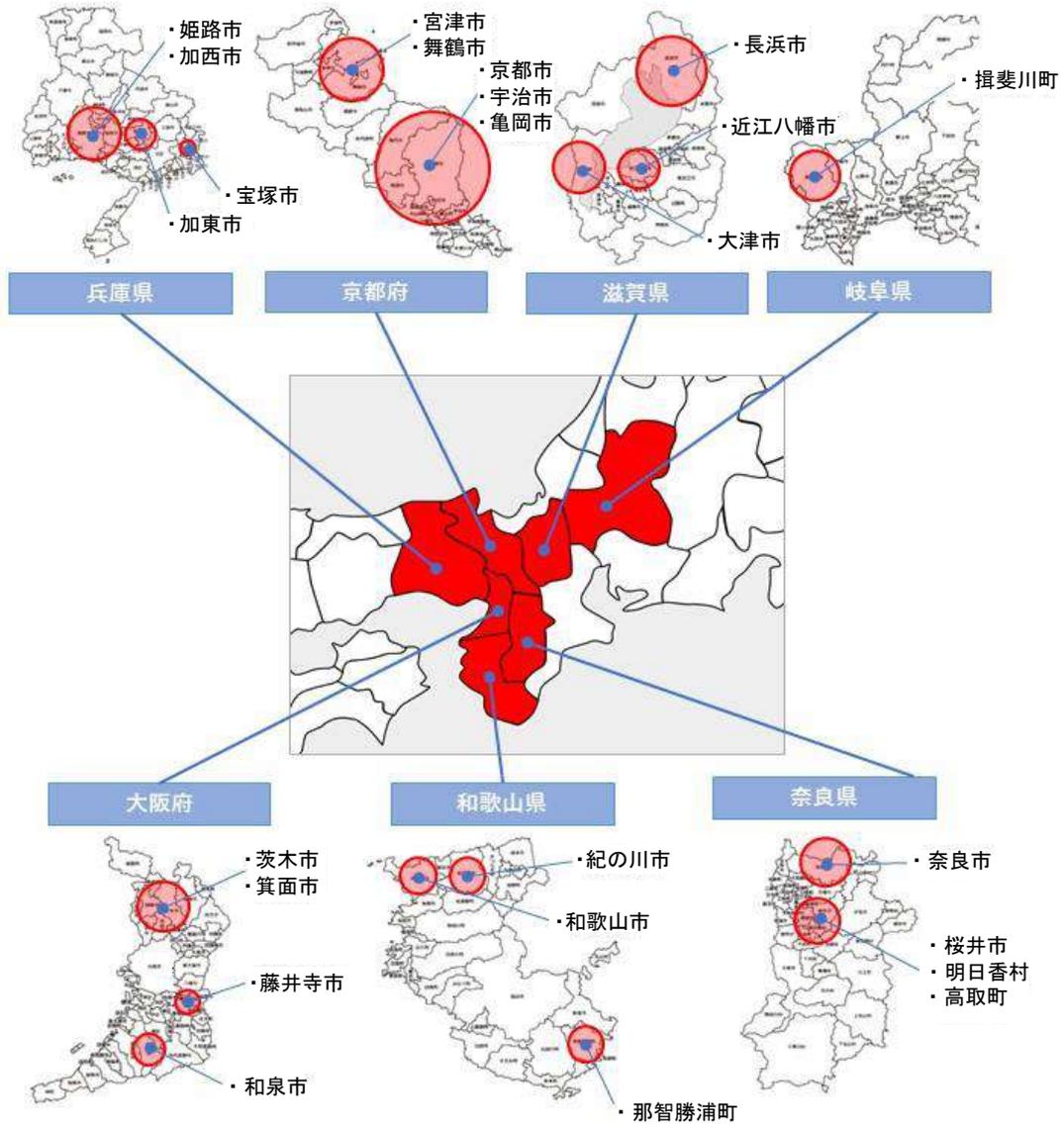


<p>① 申請者</p>	<p>◎滋賀県大津市、和歌山県那智勝浦町、和歌山県和歌山市、和歌山県紀の川市、大阪府和泉市、大阪府藤井寺市、大阪府茨木市、大阪府箕面市、奈良県高取町、奈良県明日香村、奈良県桜井市、奈良県奈良市、京都府宇治市、京都府京都市、京都府亀岡市、京都府宮津市、京都府舞鶴市、兵庫県宝塚市、兵庫県加東市、兵庫県加西市、兵庫県姫路市、滋賀県長浜市、滋賀県近江八幡市、岐阜県掛斐川町</p>	<p>② タイプ</p>	<p>地域型 / シリアル型 A B C D E</p>
<p>③ タイトル</p>			
<p>(ふりがな)</p>	<p>1300 ねんつづくにほんのしゅうかつのたび ～さいこくさんじゅうさんしょかんのんじゅんれい</p>		
<p>1300 年つづく日本の終活の旅 ～西国三十三所観音巡礼～</p>			
<p>④ ストーリーの概要 (200字程度)</p>			
<p>究極の終活とは、ただ死に向かって人生の整理をすることではない。人生を通して、いかに充実した心の生活を送れるかを考えることが、日本人にとっての究極の終活である。そして、それを達成できるのが西国三十三所観音巡礼である。</p> <p>日本人は海外の人から『COOL!』だと言われる。そのように評価されるのは、優しさ、心遣い、勤勉さといった日本人の本来の心であり、実はそれは日本人が親しんできた「観音さん」の教えそのものである。観音を巡り日本人本来の豊かな心で生きるきっかけとなる旅、それが西国三十三所観音巡礼なのだ。</p>			

奈良・長谷寺

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）





紀伊エリア (和歌山県) [3]

- ①第 1 番札所 青岸渡寺と六臂如意輪観音坐像
・和歌山県那智勝浦町
- ②第 2 番札所 金剛宝寺 (紀三井寺) と木造十一面観音立像
・和歌山県和歌山市
- ③第 3 番札所 粉河寺と千手千眼観世音菩薩
・和歌山県紀の川市



摄津・河内・和泉エリア (大阪府) [4]

- ④第 4 番札所 施福寺と十一面千手千眼観世音菩薩
・大阪府和泉市
- ⑤第 5 番札所 葛井寺と乾漆千手観音坐像
・大阪府藤井寺市
- ⑫第 22 番札所 総持寺と千手観世音菩薩
・大阪府茨木市
- ⑬第 23 番札所 勝尾寺と十一面千手観世音菩薩
・大阪府箕面市



大和エリア (奈良県) [4]

- ⑥第 6 番札所 南法華寺 (壺阪寺) と十一面千手千眼観世音菩薩
・奈良県高取町
- ⑦第 7 番札所 岡寺と塑像如意輪観音坐像
・奈良県明日香村
- ⑧第 8 番札所 長谷寺と木造十一面観音立像
・奈良県桜井市
- ⑨第 9 番札所 興福寺南円堂と木造不空羂索観音菩薩坐像
・奈良県奈良市



山城・丹後・丹波エリア (京都府) [11]

- ⑩第 10 番札所 三室戸寺と千手観世音菩薩
・ 京都府宇治市
- ⑪第 11 番札所 醍醐寺 観音堂と准胝観音像
・ 京都府京都市
- ⑮第 15 番札所 今熊野観音寺と十一面観世音菩薩
・ 京都府京都市
- ⑯第 16 番札所 清水寺と十一面千手千眼観世音菩薩
・ 京都府京都市
- ⑰第 17 番札所 六波羅密寺と木造十一面観音立像
・ 京都府京都市
- ⑱第 18 番札所 六角堂頂法寺と如意輪観世音菩薩
・ 京都府京都市
- ⑲第 19 番札所 革堂行願寺と千手観世音菩薩
・ 京都府京都市
- ⑳第 20 番札所 善峯寺と千手観世音菩薩
・ 京都府京都市
- ㉑第 21 番札所 穴太寺と木造聖観音立像
・ 京都府亀岡市
- ㉒第 28 番札所 成相寺と聖観世音菩薩
・ 京都府宮津市
- ㉓第 29 番札所 松尾寺と馬頭観世音菩薩
・ 京都府舞鶴市



近江エリア (滋賀県)

[6]

- ⑫第 12 番札所 正法寺 (岩間寺) と千手観世音菩薩
・滋賀県大津市
- ⑬第 13 番札所 石山寺と如意輪観音半跏像
・滋賀県大津市
- ⑭第 14 番札所 園城寺 (三井寺) 観音堂と木造如意輪観音坐像
・滋賀県大津市
- ⑳第 30 札所 宝蔵寺と千手千眼観世音菩薩
・滋賀県長浜市
- ㉑第 31 番札所 長命寺と木造十一面観音立像
木造聖観音立像、木造千手観音立像
・滋賀県近江八幡市
- ㉒第 32 番札所 観音正寺と千手千眼観世音菩薩
・滋賀県近江八幡市



播磨・但馬エリア (兵庫県)

[4]

- ㉔第 24 番札所 中山寺と木造十一面観音立像
・兵庫県宝塚市
- ㉕第 25 番札所 播州清水寺と十一面千手観世音菩薩
・兵庫県加東市
- ㉖第 26 番札所 一乗寺と銅造聖観音立像
・兵庫県加西市
- ㉗第 27 番札所 圓教寺と六臂如意輪観世音菩薩
・兵庫県姫路市



飛騨・美濃エリア (岐阜県)

[1]

- ㉓第 33 番札所 華蔵寺と十一面観世音菩薩
・岐阜県揖斐川町

ストーリー

1. 1300年つづく究極の終活の旅

“生きとし生けるものは、いつか命の終わりを迎える。”

“そこで人は、自分らしい生き方、自分らしい最期を思い描く。”

昨今では「終活」と称し、エンディングノートに感謝の言葉や希望の葬儀、お別れ会、遺産分配など人生を振り返って書き残し、憂い無く命を終える準備をする人が増えてきている。しかし、そればかりが「終活」であるとは言いがたい。なぜなら、身の回りの整理ができれば、次は自らの命と向き合わなければならないからである。自分の人生と向き合うことは、老若男女関係なく、誰しものが通らなければならない道である。人は生まれ落ちた瞬間から終わりに向かって生きている。どれだ

け健康で若かろうと、限りある今という瞬間をどのように生きるかを考えた時、自ずと終わりが意識される。その時、年代や性別、生活環境を超えて、不安に対する一つの支えとなるのが、日本人が1300年ものあいだ続けてきた、自分の人生に向き合う旅、西国三十三所観音巡礼なのである。

そして、今まさに、「究極の終活の旅」としての価値が見出されている。

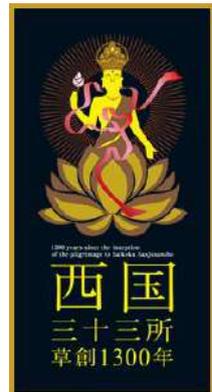


写真
西国三十三所
草創1300年
ロゴマーク

2. 最初の巡礼、西国三十三所

日本には多くの巡礼の路があるが、西国三十三所観音巡礼は、日本で最初の巡礼である。四国八十八カ所との違いは何か。八十八カ所は山岳信仰などに由来し、海辺や山中で苦行する道を弘法大師とともに歩く修行の旅である。西国三十三所は観音菩薩の慈悲に触れる巡礼で、「遍路」とは呼ばない。板東・秩父などの国内の多くの観音霊場は、西国までの旅が叶わない人の為に、写し霊場として作られたものである。



写真

巡礼の様子

観音菩薩は、道端で微笑むお地蔵さんとともに、「観音さん」と日本人に最も親しをもたれてきた仏の一つであるといえよう。なぜ観音は日本人に親しまれたのか。それは、世の苦しみを心の目で観る観音の姿が、日本人のもともと持っているやさしさや真面目さ、心遣い、勤勉さといったものからくる「思いやる心」そのものであったからである。様々な事象に対しての細やかな「気遣い」や「心配り」は昨今海外の人から『O・MO・TE・NA・SHI』と評価されている。観音は、「観音経」のなかにその功德が説かれ、生きとし生ける者のために33の姿に化身して人を救い、その人がどんな苦難に遭っても救う。それは、日本人にとってまさしく理想の姿であった。往古の日本人も慈悲の象徴である観音に憧れ、自らの心の中の観音と出会い、人生を見つめ直すために旅に出たのである。

「中山寺由来記」によれば、西国三十三所観音巡礼を始めたのは、徳道上人という僧侶であった。養老2(718)年、徳道上人は突然の病により、仮死状態に陥った。そこで冥途に赴いたところ、閻魔大王に出会う。閻魔大王はこのように告げた。「世の中が乱れ、人の心が荒んでいる。そのため、生前の悪行によって地獄に墮ちるものが多くなった。あなたは観音の教えを広め、人々を巡礼に導きなさい」。そして、33の宝印と起請文(誓いの文書)を託され、上人は現世に戻された。上人は各地の観音の霊地で閻魔大王から授かった宝印を配った。閻魔大王の約束の証である宝印を33すべての寺院で集めると、極楽浄土への通行手形となる。これが西国三十三所観音巡礼の始まりであり、現在の「御朱印」の発祥である。

一度は廃れてしまった西国巡礼であったが、徳道上人亡き後、花山法皇がお告げに従って



写真
御朱印

自ら三十三所を歩み、これを再興した。その時、参詣の証に寺院に札を打ち付けたことから「札所」と呼ばれるようになり、花山法皇がそれぞれの寺で観音を称えて詠んだ歌が「御詠歌」となった。

「極楽浄土への通行手形」と閻魔大王が言ったのは、ただ御朱印を集めれば良いという意味ではない。人が西国巡礼を通して自分や他者の優しい心に触れることで、自ずと生前の行いが良くなり、結果的に極楽浄土へと導かれるという意味である。

3. 心を豊かにする景観、文化財

札所ごとに息をのむほどの美しい景色や度肝を抜かれるような仏像を見て、心を豊かにするのも、西国巡礼の魅力のひとつである。例えば、旅の出発点である第1番札所青岸渡寺（和歌山県那智勝浦町）では、那智の滝と朱色の三重塔の調和が美しく、水しぶきを感じながら、この上ない絶景を見ることができる。第8番札所長谷寺



写真

第1番札所
青岸渡寺

（奈良県桜井市）では、高さ10mを超える十一面観音が出迎える。ご開帳の際には御足に触れることができ、足元で心静かに祈りを捧げる瞬間は、観音の慈悲を感じるひとときである。

青岸渡寺の本堂や長谷寺の観音像は重要文化財に指定されているが、このほかにも各寺院には国宝・重要文化財クラスの宝物が多く所蔵されている。信仰の場であると同時に、日本の大切な文化財の宝庫でもあるのだ。

また、形のない文化財もある。花山法皇が詠んだ御詠歌は、五・七・五・七・七のリズムで札所の観音を称えた歌であり、現在も巡礼者によって歌われる。それは、形のない祈りの文化財である。

4. 門前の賑わい、スイーツを通した人との出会い

充実した心の生活を送るためには、心の穏やかさに気づく必要がある。現代においては、観音巡礼のあいだ、各地のスイーツを楽しみながら参拝をするスタイルが人気である。お菓子には人を和やかにさせる力がある。お参りの後にスイーツを食べる時、「美味しいね」という会話によって人が知り合うことがある。すると、それまでまったく知らなかった人同士の心が通うのである。



写真

石山寺の「石餅」

小さなきっかけによってお互いに信頼し、思いやる心が生まれる。そこにも日本人の心が感じられるのである。

札所の門を出ると、門前には名物や名産の店が並ぶ。かつての旅人たちは、旅の疲れを名物菓子で癒やしたことだろう。それは現代も変わらず、参詣の帰りの土産物を楽しみにしている人は少なくない。



写真

石山寺の硅灰石

各札所には「スイーツ巡礼」として、それぞれ認定スイーツを掲げ、甘味を楽しみながらの参詣を勧めている。例えば第13番札所石山寺（滋賀県大津市）には、琵琶湖の湖魚料理の食事処、甘味、骨董品などの土産物が並ぶ門前町がある。その中の一つ、和菓子「石餅」は、石山寺の境内にそびえ立つ硅灰石（国天然記念物）になぞらえた菓子を復刻したものである。参詣者の多くは、この「石餅」をお土産に求め、縁結びのご利益があると笑い合う姿が見られる。

食事をする人が怒っていたり泣いていたりはよくあるが、お菓子を食べる人が怒ったり泣いたりしていることはない。スイーツには、人を和やかにさせる力がある。次の札所にはどのような名物・名産が待つだろうと心を躍らせるのも、旅の楽しみの一つであろう。

世の苦しみを心で観る観音へと近づき、日本人本来の豊かな心に気づく旅、西国三十三所観音巡礼。「究極の終活の旅」は“自分らしい生き方”“自分らしい最期”を見つけるための拠り所となるだろう。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等 の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の 所在地 (※4)
①	せいがんとうじ 青岸渡寺と ろっぴによいりんかんのんざぞう 六臂如意輪観音坐像	国重文 (建造物) 国史跡 未指定 (彫刻)	第1番札所。縁起によると仁徳天皇の頃(4世紀)裸形上人の開基とする。推古天皇朝(593~628)に生仏上人が椿の霊木で造像し、裸形上人が感得した観音像を胎内に納めて本尊とした。 西国三十三所の旅の出発点である。那智の滝と朱色の三重塔の調和が美しく、水しぶきを感じながら、この上ない絶景を見ることができる。	和歌山県 那智勝浦町
②	こんごうほうじ (き みいでら) と 金剛宝寺(紀三井寺)と もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう 木造十一面観音立像	国重文 (彫刻) 県有形 (建造物)	第2番札所。宝亀元(770)年に為光上人によって開基された。 楼門から一直線に伸びる「結縁坂」を上り切ると、寄木立像としては日本最大の十一面観音が出迎える。黄金色の圧倒的な姿を拝み、3階から十一面をじっくりと眺めることができるのも魅力のひとつ。	和歌山県 和歌山市
③	こかわでら 粉河寺と せんじゆせんがんかんぜおんぼさつ 千手千眼観世音菩薩	国重文 (建造物) 未指定 (彫刻)	第3番札所。宝亀元(770)年、大伴孔子古が千手観世音菩薩を本尊として創建する。 平安時代より病氣平癒に靈験ある寺院として信仰を集める。本尊の千手千眼観音は絶対永久秘仏。見えない本尊を取り囲む多くの仏像が立ち並ぶ様子は神秘的である。	和歌山県 紀の川市
④	せふくじ 施福寺と じゅういちめんせんじゆせんがんかんぜおんぼさつ 十一面千手千眼観世音菩薩	未指定 (建造物) 未指定 (彫刻)	第4番札所。欽明天皇の勅願により行満上人が開基。宝亀2(771)年、法海が本尊となる十一面千手千眼観音を感得。 槇尾山の中腹にあり、長い石段を超えて参詣するため、屈指の難所とされてきた。 「観音八丁」ともいわれる約1kmの観音さまへの道のりを、一步一步踏みしめながらの参詣である。	大阪府 和泉市
⑤	ふじいでら かんしつせんじゆかんのんざぞう 葛井寺と乾漆千手観音坐像	国宝(彫刻) 未指定 (建造物)	第5番札所。神亀2(725)年、聖武天皇の勅願によって創立。 1000本以上手のある千手千眼観音は、毎月18日にご開帳。奈良時代から指の一本も欠けずに守られてきた先人たちの信仰に感じ入る。みずみずしい藤の花が香る名所でもある。	大阪府 藤井寺市

⑥	みなみほけじ つぼ さかであら 南法華寺（壺阪寺）と じゅういちめんせんじゆせんがんかんぜおんぼさつ 十一面千手千眼観世音菩薩	未指定 （建造物） 未指定 （彫刻）	第 6 番札所。大宝 3（703）年、弁基上人によって開基。 座頭の三味線弾きとその妻の悲劇、そして本尊の十一面観音による救済を描いた浄瑠璃『壺阪靈験記』の舞台となっている。本尊は眼病封じの観音さまとして、広く信仰を集め、「めがね供養」も行われる。	奈良県 高取町
⑦	おかであら りゅうがいじ そぞうによい 岡寺（龍蓋寺）と塑造如意 りんかんのんざぞう 輪観音坐像	国重文 （彫刻） 県有形 （建造物）	第 7 番札所。天智天皇 2（663）年に天智天皇の勅願により義淵僧正が岡宮の跡地に寺を建立したのがはじまりと伝えられている。 インド・中国・日本の三国の土で造像された巨大な如意輪観音が御座す、日本最初の厄除け霊場である。龍を封じ込めたとされる「龍蓋池」が静かに水をたたえる。	奈良県 明日香村
⑧	ほせであら 長谷寺と もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう 木造十一面観音立像	国宝(建造物)、 国重文 （彫刻）	第 8 番札所。朱鳥元（686）年、道明上人が天武天皇の病氣平癒のため創建。その後、神亀 4（727）年に徳道上人が十一面観音を安置した。 「初瀬詣で」として信仰をあつめた。本尊の十一面観音は木造としては国内最大級で、高さ 10 メートル超。ご開帳の際には御足に触れることができ、足元で心静かに祈りを捧げる瞬間は、観音の慈悲を感じるひとときである。	奈良県 桜井市
⑨	こうふくじなんえんどう 興福寺南円堂と もくぞうふくうけんざくかんのんぼさつざぞう 木造不空絹索観音菩薩坐像	国宝(彫刻) 国重文 （建造物）	第 9 番札所。弘仁 4（813）年、藤原冬嗣が父・内麻呂の追善供養の為に建立。日本で最大の八角堂となっている。 庶民と功德を分け合うために建立された南円堂は、人と鹿とが行き交う開放的な雰囲気の中にあり、現在も創建当時の思いを伝えるようである。	奈良県 奈良市
⑩	みむろとじ せんじゆかんぜおんぼさつ 三室戸寺と千手観世音菩薩	府有形 （建造物） 未指定 （彫刻）	第 10 番札所。宝亀元（770）年、光仁天皇の勅願により、三室戸寺の奥、岩淵より出現した千手観世音菩薩を本尊として創建。本尊は千手観音であるが、腕は二本（二臂）。創建時、千手観音が二臂の観音に姿を変えたという不思議な伝説に由来する。花の寺としても名高く、5 月にはツツジ、6 月には紫陽花が色濃く花を咲かせる。	京都府 宇治市
⑪	だいごじ 醍醐寺観音堂と じゆんていかんのんざぞう 准胝観音像	国史跡、 未指定	第 11 番札所。醍醐寺は貞観 16（874）年、理源大師 聖宝により開基。	京都府 京都市

		(建造物) 未指定 (彫刻)	本来札所である上醍醐准胝堂は平成 20 (2008) 年の落雷により焼失したため、現在は下醍醐観音堂を札所とする。緑の匂いに包まれた広大な境内では、五重塔などの迫力ある建造物が自然と調和する。「醍醐味」の名前の由来となった醍醐水の井戸から水を汲み、喉を潤すことができる。	
⑫	しょうほうじ いわまであら 正法寺(岩間寺)と せんじゅかんぜおんぼさつ 千手観世音菩薩	未指定 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 12 番札所。養老 6 (722) 年、泰澄大師開基による元正天皇の勅願寺院である。泰澄大師は桂の霊木で等身大の千手観音を彫り、胎内に元正天皇の念持仏(現在の本尊)を奉安し、本尊とした。標高 455 メートル、木立に覆われた境内には、日本一の桂の大樹群、芭蕉の池、雷神爪堀湧泉等があり、歴史と自然が共存する。東海自然歩道も通り、四季折々の自然が楽しめる山寺である。	滋賀県 大津市
⑬	いしやまであら 石山寺と もくぞうによいりんかんのんはんかぞう 木造如意輪観音半跏像	国宝(建造物)、 国重文 (彫刻)	第 13 番札所。石山寺縁起絵巻(国重文)によれば天平 19 (747) 年、聖武天皇の勅願により、良弁僧正が開山。巨大な珪灰石(国天然記念物)の上に本堂が建立されている。月の名所でもあり、かつて紫式部がここから琵琶湖に映る月を見て『源氏物語』の構想を思いついた地でもある。	滋賀県 大津市
⑭	おんじょうじ みいでら 園城寺(三井寺)観音堂と もくぞうによいりんかんのんざぞう 木造如意輪観音坐像	国重文 (彫刻) 県有形 (建造物)	第 14 番札所。天台寺門宗の総本山。天智・弘文・天武天皇の勅願により、弘文天皇の皇子・大友与多王が田園城邑を投じて建立。天智・天武・持統天皇の産湯に用いられた霊泉があり、三井寺とも称する。琵琶湖疎水から三井寺に至る道は、春には桜並木が美しい。「三井の晩鐘」として名高い梵鐘は、かつて目を失った竜女に子どもが健やかであることを知らせるために撞かれたものという伝説がある。	滋賀県 大津市
⑮	いまくまのかんのんじ 今熊野観音寺と じゅういちめんかんぜおんぼさつ 十一面観世音菩薩	未指定 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 15 番札所。天長年間(824~834)年頃、嵯峨天皇の勅願により弘法大師が開創。厄除開運の寺として知られ、特に頭痛・病氣封じ・智恵授かりの霊験あらたかな本尊として広く信仰されている。観音さまが枕元に立ってお告げをされるという霊験譚にちなみ、頭痛封じの「枕カバー」を受け	京都府 京都市

			ることができる。	
⑩⑥	きよみずでら 清水寺と じゅういちめんせんじゆせんがんかんぜおんぼさつ 十一面千手千眼観世音菩薩	国宝(建造物)、 未指定 (彫刻)	第 16 番札所。宝亀 9 (778) 年、延鎮上人が開基。延暦 19 (798) 年、坂ノ上田村麻呂が、本堂を寄進建立し、本尊十一面千手観音を安置した。参道の両脇には土産物店や料亭が立ち並び、人の出入りが絶えない。「清水の舞台」として有名な本堂は、大胆な舞台作りの建築であり、京都を代表する風景である。霊水を長い柄杓で受ける「音羽の滝」も参詣者に人気である。	京都府 京都市
⑩⑦	ろくはらみつじ 六波羅蜜寺と もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう 木造十一面観音立像	国宝(彫刻) 国重文 (建造物)	第 17 番札所。天曆 5 (951) 年、空也上人により開創。平安時代後期になると境内に平家一門の屋敷が建てられ、六波羅第と称された。本尊は京都に流行した悪疫退散のため、上人自ら十一面観音像を刻んだもの。「南無阿弥陀仏」を表す 6 体の小さな阿弥陀仏を口から出す空也上人像は、仏の慈悲を我々に訴えかけるようである。	京都府 京都市
⑩⑧	ろっかくどうちやうほうじ 六角堂頂法寺と にょいりんかんぜおんぼさつ 如意輪観世音菩薩	市有形 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 18 番札所。用明天皇 2 (587) 年、聖徳太子を開基として創建されたと伝わる。周囲を高層ビルに囲まれた谷間に本堂があり、京都のど真ん中にあることから「京都のへそ」とも言われる。「いけばな発祥の地」としても有名である。華道家元池坊が住職を務め、いけばなをたしなむ老若男女が絶えず参拝するのも、六角堂ならではの風景である。	京都府 京都市
⑩⑨	こうどうぎやうがんに 革堂行願寺と せんじゆかんぜおんぼさつ 千手観世音菩薩	市有形 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 19 番札所。寛弘元 (1004) 年、一条天皇の勅願により行円上人によって開基される。室町時代後半には上京の町衆の集会場となった。開山の行円上人は、腹に子を宿した鹿を射たことを悔やんで出家した。命の尊さを忘れないため、いつも鹿の革を身にまとっていたことから、革堂と呼ばれるようになったという。	京都府 京都市
⑩⑩	よしみねでら 善峯寺と せんじゆかんぜおんぼさつ 千手観世音菩薩	府有形 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 20 番札所。長元 2 (1029) 年、源算上人が開基。長元 7 (1034) 年には後一条天皇から鎮護国家の勅願所と定められた。桂昌院ゆかりの薬師堂は境内のもっとも高い場所にあり、歴史ある諸堂や壮大な山	京都府 京都市

			の風景が見渡せる。桂昌院の大出世にちなみ、出世や玉の輿のご利益があるといわれる。	
⑳	あなおじ もくぞうしょうかんのんりゅうぞう 穴太寺と木造聖観音立像	国重文 (彫刻) 府有形 (建造物)	第 21 番札所。慶雲 2 (705) 年、文武天皇の勅願により大伴古磨によって開基したと伝えられる。 仏師の代わりに矢を受けたという身代わり観音の説話がある。里山の境内はのんびりとした雰囲気、雅を感じる庭は江戸時代の作。病氣平癒で知られる「なで仏」の釈迦涅槃像は、ありがたくも微笑ましい。	京都府 亀岡市
㉑	そうじじ せんじゅかんぜおんぼさつ 総持寺と千手観世音菩薩	市有形 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 22 番札所。仁和 2 (886) 年、中納言藤原山蔭により開創。藤原山蔭は本尊像立に際し、千日間に亘り料理を御供えした縁により包丁道の祖として祀られている。 「亀の恩返し」のエピソードから、本尊は札所寺院で唯一亀の座に乗っている。池を覗けばたくさんの亀も出迎えてくれる。	大阪府 茨木市
㉒	かつおじ 勝尾寺と じゅういちめんせんじゅかんぜおんぼさつ 十一面千手観世音菩薩	府有形 (彫刻) 未指定 (建造物)	第 23 番札所。神亀 4 (727) 年、善仲・善算によって開創され、開成皇子が開基。 山岳信仰の拠点であった山の境内は清々しく、至る所にかわいらしい小さな「ダルマみくじ」が並ぶ。勝運祈願の寺として信仰され、勝運成就した「勝ちダルマ」が奉納されているのは、勝尾寺の象徴的な風景である。	大阪府 箕面市
㉓	なかやまでら 中山寺と もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう 木造十一面観音立像	国重文 (彫刻) 県有形 (建造物)	第 24 番札所。推古天皇時代 (593~628) に聖徳太子によって開基。「安産の寺」として信仰を集め、安産祈願の人々が全国から腹帯を求めて参拝する。極彩色の本堂や新しいシンボルとなった青龍塔、大願塔のステンドグラス、参詣者にありがたいエスカレーターなど、華やかで近代的な境内には活気があふれる。	兵庫県 宝塚市
㉔	ばんしゅうきよみずでら 播州清水寺と じゅういちめんせんじゅかんぜおんぼさつ 十一面千手観世音菩薩	国登録 有形(建造物)、 未指定 (彫刻)	第 25 番札所。推古 35 (627) 年、推古天皇勅願により法道仙人が開基。大正 2 (1913) の火災により諸堂は全焼したが、本尊の十一面観音は奇跡的に難を逃れた秘仏である。壮大な伽藍は、標高 552 メートルの御嶽山頂付近に位置する。天気の良い日は回廊からは明石海峡大橋が一望できる。	兵庫県 加東市
㉕	いちじょうじ どうぞうしょうかんのんりゅうぞう 一乗寺と銅造聖観音立像	国重文	第 26 番札所。白稚元 (650) 年に法道仙	兵庫県

		(建造物) 国重文 (彫刻)	人が開基。孝徳天皇の勅願寺。 本堂の天井に打ち付けられた無数の巡礼札、梁に残る数多くの釘穴から、いにしへの参詣者たちの信仰を感じることができる。優美な三重塔(国宝)と溶けあう山の風景、奈良・平安時代の流麗な仏像も、長い歴史を感じさせる。	加西市
⑳	えんぎようじ 圓教寺と ろっぴによいりんかんぜおんぼさつ 六臂如意輪観世音菩薩	国重文、 国史跡、 県有形 (建造物)、 県有形(彫刻)	第 27 番札所。康保 3 (966) 年、性空上人によって開かれた。天禄元 (970) 年に、桜の霊木に生木のまま如意輪観音を刻む。西の比叡山とも呼ばれ、多くの僧侶の修行の場として栄えた伽藍は、凜とした空気に包まれる。懸造りの摩尼殿やかつて修行僧が寝食を行った食堂など、威厳ある建造物を眺めると、おのずと心が引き締まる。	兵庫県 姫路市
㉑	なりあいじ しょうかんぜおんぼさつ 成相寺と聖観世音菩薩	府有形 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 28 番札所。慶雲元 (704) 年に文武天皇の勅願で創建された。開基は真応上人。名勝・天橋立を見晴らす丹後の山寺である。季節ごとに桜や紅葉、朝霞や雪に彩られる天橋立の風景を堪能できる。餓死寸前の僧侶を鹿の姿になって救った身代わりの観音の伝説がある。	京都府 宮津市
㉒	まつのおでら ばとうかんぜおんぼさつ 松尾寺と馬頭観世音菩薩	府有形 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 29 番札所。和同元 (708) 年、威光上人によって開創される。 緑深き霊山の観音さまは、札所で唯一の馬頭観音。諸悪を断ち切るための憤怒の表情に、厳かな心持になる。白馬になって漁師を嵐から救ったという伝説から、交通安全や漁業、農耕の守り仏として、或いは牛馬畜産、競馬に因む信仰を広く集めている。	京都府 舞鶴市
㉓	ほうごんじ 宝厳寺と せんじゆせんがんかんぜおんぼさつ 千手千眼観世音菩薩	国重文 (建造物) 国史跡、 国名勝、 未指定 (彫刻)	第 30 番札所。神亀元 (724) 年、行基によって開基する。 琵琶湖に浮かぶ島、竹生島にあり、渡し船でのみ参詣ができる。船上からだんだんと近づく島を見て、波しぶきを感じる。往事の巡礼者は、手こぎの船で苦勞して参詣したであろう。	滋賀県 長浜市
㉔	ちようめいじ 長命寺と むくぞうじゆいちめんかんのんりゆうぞう 木造十一面観音立像 むくぞうしょうかんのんりゆうぞう 木造聖観音立像 むくぞうせんじゆかんのんりゆうぞう 木造千手観音立像	国重文 (建造物) 国重文 (彫刻)	第 31 番札所。推古天皇 27 (619) 年、聖徳太子によって開基される。健康長寿の観音さんであるとともに、近江商人たちからも篤く信仰された。 山の中腹の境内から見下ろす琵琶湖は、か	滋賀県 近江八幡市

			つて白洲正子が「近江の中で一番美しい場所」と讃えたほどの絶景である。	
③②	かんのんしょうじ 観音正寺と せんじゆせんがんかんぜおんぼさつ 千手千眼観世音菩薩	未指定 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 32 番札所。縁起によれば推古天皇 13 (605) 年、聖徳太子が人魚を救うため、千手観音の像を刻み、堂塔を建立する。標高 433 メートルの 織山山頂付近に位置する。札所でも有数の難所であるが、本堂から望む平野風景に疲れも吹き飛ぶ。白檀で造られた 3.5 メートルの千手千眼観音は圧倒的でありながら、柔和な微笑みを湛えている。	滋賀県 近江八幡市
③③	けごんじ 華嚴寺と じゅういちめんかんぜおんぼさつ 十一面観世音菩薩	未指定 (建造物) 未指定 (彫刻)	第 33 番札所。豊然上人と大口大領により延暦 17 (798) 年に創建される。巡礼の終着点であり、「現在」「過去」「未来」を指す本堂、満願堂、笈摺堂がある。巡礼で常に身に付けていた笈摺や笠、杖などは笈摺堂に奉納され、もう一度生まれ変わるような気持ちになる。巡礼を達成した人々の満願成就の喜びがあふれる地である。	岐阜県 揖斐川町
③④	ごしゆいん 御朱印	未指定 (有形民俗)	参詣の証として納経帖、軸、笈摺などに押印してもらおう。本来は納経の証であり、札所本尊の分身であるとされている。伝説では、長谷寺の徳道上人が冥府で閻魔大王から授かった 33 の宝印が、御朱印の起源であるといわれている。西国三十三所に参詣し、33 の御朱印をすべて集めると、極楽へ行くことが約束される。	滋賀県大津市 和歌山県那智勝浦町、同和歌山市、同紀の川市 大阪府和泉市、同藤井寺市、同茨木市、同箕面市 奈良県高取町、同明日香村、同桜井市、同奈良市 京都府宇治市、同京都市、同亀岡市、同宮津市、同舞鶴市 兵庫県宝塚市、同

				加東市、同加西市 同姫路市 滋賀県長 浜市、同 近江八幡 市 岐阜県揖 斐川町
③⑤	さいごくさんじゅうさんしよごえいか 西国三十三所御詠歌	未指定 (無形 民俗)	観音巡礼を中興した花山法皇の御作と伝 わる、それぞれの札所の観音を称えた歌で ある。 御詠歌を詠じることで、経文読誦と同じ功 徳があるとされている。	滋賀県大 津市 和歌山県 那智勝浦 町、同和 歌山市、 同紀の川 市 大阪府和 泉市、同 藤井寺 市、同茨 木市、同 箕面市 奈良県高 取町、同 明日香 村、同桜 井市、同 奈良市 京都府宇 治市、同 京都市、 同亀岡 市、同宮 津市、同 舞鶴市 兵庫県宝 塚市、同 加東市、 同加西市 同姫路市 滋賀県長 浜市、同 近江八幡 市 岐阜県揖 斐川町
③⑥	かんのんれいげんき さいごくじゆんれい 観音霊験記 西国巡礼	未指定 (絵画)	観音霊験記は西国・坂東・秩父の観音霊場 (百観音)の札所本尊の由来を紹介した錦 絵。安政5年(1858)から各札所1枚の 大判の錦絵として計100枚が順次発行さ れた。絵師は二代目広重・三代目豊国(国	滋賀県大 津市 和歌山県 那智勝浦 町、同和 歌山市、 同紀の川

			貞)。文章は戯作者の万亭応賀。錦絵の上部には各札所の景観を描き、下部にはその札所の霊験談が歌舞伎の演目のごとく描かれる。当時の観音巡礼のガイドブックの役割を果たしていたといわれている。	市 大阪府和泉市、同藤井寺市、同茨木市、同箕面市 奈良県高取町、同明日香村、同桜井市、同奈良市 京都府宇治市、同京都市、同亀岡市、同宮津市、同舞鶴市 兵庫県宝塚市、同加東市、同加西市 同姫路市 滋賀県長浜市、同近江八幡市 岐阜県揖斐川町
--	--	--	--	---

- (※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形、未指定（建造物）、等）。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①青岸渡寺と六臂如意輪観音坐像



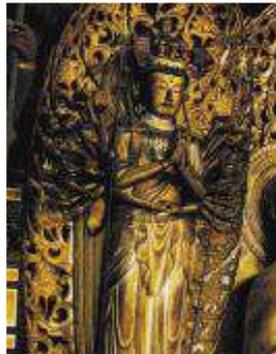
②金剛宝寺（紀三井寺）と木造十一面観音立像



③粉河寺と千手千眼観世音菩薩



④施福寺と十一面千手千眼観世音菩薩



⑤葛井寺と乾漆千手観音坐像



⑥南法華寺（壺阪寺）と十一面千手千眼観世音菩薩



⑦岡寺と塑造如意輪観音坐像



⑧長谷寺と木造十一面観音立像



⑨興福寺南円堂と木造不空縋索観音菩薩坐像



⑩三室戸寺と千手観世音菩薩



⑪醍醐寺 観音堂と准胝観音像



⑫正法寺（岩間寺）と千手観世音菩薩



⑬石山寺と木造如意輪観音半跏像



⑭園城寺（三井寺） 観音堂と木造如意輪観音坐像



⑮今熊野観音寺と十一面観世音菩薩



⑯清水寺と十一面千手千眼観世音菩薩



⑰六波羅蜜寺と木造十一面観音立像



⑱六角堂頂法寺と如意輪観世音菩薩



⑲革堂行願寺と千手観世音菩薩



⑳善峯寺と千手観世音菩薩



②①穴太寺と木造聖観音立像



②②絵持寺と千手観世音菩薩



②③勝尾寺と十一面千手観世音菩薩



②④中山寺と木造十一面観音立像



②⑤ 播州清水寺と十一面千手観世音菩薩



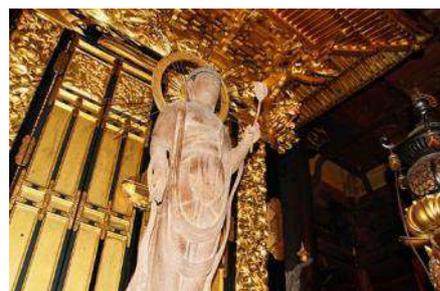
②⑥ 一乗寺と銅造聖観音立像



②⑦ 圓教寺と六臂如意輪観世音菩薩



②⑧ 成相寺と聖観世音菩薩



⑳松尾寺と馬頭観世音菩薩



㉑宝巖寺と千手千眼観世音菩薩



㉒長命寺と木造十一面観音立像、木造聖観音立像、木造千手観音立像



㉓観音正寺と千手千眼観世音菩薩



③ 華厳寺と十一面観世音菩薩



④ 御朱印



* 第一番札所 青岸渡寺の御朱印

⑤ 西国三十三所御詠歌



* 第一番札所 青岸渡寺境内の御詠歌「補陀洛や岸うつ波は三熊野的那智のお山にひびく瀧つせ」

③⑥ 観音霊験記 西国巡礼



* 『観音霊験記』 第一番札所 青岸渡寺

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
74	1300年つづく日本の終活の旅 ～西国三十三所観音巡礼～

(1) 将来像 (ビジョン)

閻魔大王より選ばれた33の札所寺院で構成される「西国三十三所」は、1300年続く日本最古の巡礼道である。養老2年(718)、長谷寺の徳道上人は、病で仮死状態となり、冥府で閻魔大王に出会い、観音霊場を開くようにと、33の宝印と、「33の宝印を集めると地獄に堕ちない」という起請文を授かった。それゆえ、西国三十三所を満願した御朱印帳は、巡礼の証としてだけでなく、天国へのパスポートのようなものとして捉えられてきた。自らのため、また、大切な人のための「終活の旅」の文化は、シニア層はもちろん、お寺めぐりや仏像鑑賞を趣味とする若者、季節の花やスイーツを楽しむ女性など、幅広い層に受け入れられ、1300年経った現在もその魅力は色褪せることはない。総距離1,000km。33の札所寺院が点在する2府5県の広域エリアでは、構成文化財である札所寺院をはじめ、四季折々の自然、地域の伝統や文化、祭り、観光施設、特産品、スイーツなど、様々な出会いや感動がある。旅を通して心を躍らせる、西国三十三所観音巡礼道は、「終活」という言葉からイメージされる「死」とは真逆の「生」を実感し、今をより良く、楽しく生きるための旅である。日本の最古の巡礼道「西国三十三所」の魅力を、国内はもとより世界へ向けて発信するとともに、「日本遺産」の巡礼道として、地域の人々が誇れるよう、啓蒙啓発活動を継続する。

1. 日本遺産を積極的に活用し事業推進を行う有志のチーム作り

これまで札所寺院やNPO、商店街等の各種団体からなる「地域活性化委員会」を全エリアで発足することを目指してきたが、足並みを揃えるのは現実的ではないと考える。今後は、すでに活動している滋賀県の「安土・老蘇ふるさとづくり委員会 SATOUMI.」と、岐阜県揖斐川町の「西国三十三所『谷汲山華嚴寺』日本遺産活用推進協議会」をはじめ、日本遺産を積極的に活用していこうとするチームを結成し、エリアを越えた事業推進を行っていく。

2. 日本遺産「西国三十三所観音巡礼道」の魅力発信

スペシャルサイトやSNSを活用した積極的な情報発信を継続する。また、巡礼ツアーやシンポジウムを開催し、日本遺産「西国三十三所」の魅力を広く啓蒙していく。また、国内外の巡礼道と連携した事業を展開していく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：スペシャルサイトのビュー数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	227,894	246,987	213,204 (10ヶ月)	218,204	223,204	228,204
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2025年以降は毎年5,000ビューの増加を目標とする					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：QRコードステッカー貼り付け協力団体（店舗）数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	0	0	0	10	20	30
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	毎年10団体の増加を目標とする					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域の子供や学生をターゲットにした行事の実施						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値				3	3	3
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	毎年3回以上の実施を目標とする					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③-A：オリジナル商品の開発						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値			1	1	1	1

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	毎年新しく1商品の開発を目標とする
---------------------	-------------------

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-A：日本遺産ストーリーを伝える行事の実施						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値				2	2	2
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	毎年2回以上の実施を目標とする					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤-A：地域の観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	257,545	357,290	431,095	450,000	480,000	510,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	33寺院平均 年間の観光入込客数					

(3) 地域活性化のための取組の概要

日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会内における連携の強化

●2府5県の札所寺院(33)と寺院所在地の自治体(24)・観光協会(23)で構成されている日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会は、広域にまたがるシリアル型であるため、協議会内の連携の強化が必須である。また、「安土・老蘇ふるさとづくり委員会 SATOUMI.」と「西国三十三所『谷汲山華嚴寺』日本遺産活用推進協議会」の2団体の「地域活性化委員会」に続く、日本遺産を積極的に活用する有志チームの結成を目指す。

- WEBサイトやSNS、マスメディアを使い、積極的に情報を発信する。
- WEBサイトへ誘導するQRコードステッカーを貼り付ける協力団体(店舗・施設)を増やす。
- 地域の子供や学生をターゲットとした行事を行う。
- 日本遺産ストーリーを伝える行事を行う。
- PRブースの出展やPR資材の開発等、日本遺産「西国三十三所」のPR活動を積極的に行う。
- 「巡礼文化」をキーワードに、他の巡礼道との連携を図り相互送客を促進する。
- 巡礼ツアーの実施。
- 西国先達の育成。

(4) 実施体制

日本遺産地域活性化委員会:「西国三十三所『谷汲山華嚴寺』日本遺産活用推進協議会」「安土・老蘇ふるさとづくり委員会 SATOUMI.」を含む、有志チームの地域において、再度、日本遺産を活用しての地域活性化の手段を検討する。

検討するにあたり、地域活性委員会発足地域(揖斐川町・近江八幡市)、及び有志チーム(予定:奈良南部・兵庫姫路地域・滋賀南部地域・京都北部地域)の行政が策定する観光振興計画を活用し、日本遺産事業を進められるよう体制作りを構築する。

また、有志チームの各地域の行政からも、各地域の事業に準じた資金的な協力を得る事を前提とする。構成文化財(西国札所寺院)、行政、構成文化財地域が三位一体となり、日本遺産事業に取り組める様、日本遺産事業への協力関係の強化に努める。

[人材育成・確保の方針]

西国三十三所札所会にて認定した公認先達は現在約17,000人の登録がある。つまり、17,000人が74番目のストーリーを実践している。公認先達の研修会は年一回開催され、日本遺産西国巡礼の魅力や、巡礼に関して教養を深めている。但し、全ての先達をそのまま日本遺産のストーリーを伝えるガイドと捉えるのではなく、適正のある人材、また、先達以外の新たな人材を、日本遺産ストーリーに特化したガイドとして育成する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産「1300年つづく日本の終活の旅 ～西国三十三所観音巡礼～」の構成文化財である33の札所寺院で構成される西国三十三所札所会からの資金を主としているが、今後は自治体と連携するなど、事業予算の増額の可能性を探る。

特別拝観等の継続的な事業

西国三十三所各札所では、「西国巡礼」を知ってもらうきっかけとして、多くの人に札所へ足を運んでもらうことを重視している。特に、普段は非公開のお堂や諸尊のご開帳及び庭の公開や寺宝の観覧などは、効果が高い。日本遺産事業として特別拝観やツアーを実施し、「西国巡礼」と「日本遺産」双方の認知度アップ、また、自走の足がかりとする。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

各札所寺院は、国指定文化財も多く保有しており、それぞれに保存活用をし、観光客の誘致活動を実施している。その活動ひとつひとつが、日本遺産「西国三十三所観音巡礼」という日本最古の巡礼文化を啓発し、他地域への観光誘致へと結びついている。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	有志チーム（仮称）の結成		
概要	<p>すでに発足、活動している滋賀県の「安土・老蘇ふるさとづくり委員会 SATOUMI.」と、岐阜県揖斐川町の「西国三十三所『谷汲山華嚴寺』日本遺産活用推進協議会」をはじめ、日本遺産を活用する有志のチームを結成し、エリアの枠組みを越えた事業推進を行っていく。</p> <p>※2府5県の構成文化財地域に地域活性化委員会を発足することは困難であり、まずは推進協議会の会員（構成文化財、及び行政や観光協会）へアンケートを実施し、日本遺産を活用し地域活性化を目指したいという地域で有志チームを発足する。</p> <p>例えば令和7年度に実施した HISTORY collabo ID とのコラボ事業「滋賀四寺の住職と歩くウォーキングイベント」は、岩間寺、石山寺、三井寺、観音正寺の住職と実際に巡礼道を歩き、法話や特別拝観、オリジナル NFT アート進呈等、豊富な特典を盛り込んだウォーキングイベント。今後も、有志チームにより開催エリアを広げていく。また、これまで実施してきた「同日巡礼」や「日本百観音」「スペイン・サンティアゴ巡礼路との巡礼文化友好協定」等の事業も有効に活用する。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	有志チームの結成	日本遺産を積極的に活用する有志のチームを結成。一部のエリアであっても、まずは事業を行い、前例を作り、将来的には広域エリアでの実施を目指す。	各構成文化財と自治体、観光協会等
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			実績 1
2023			
2024			実績 1
2025	有志チームの発足数		目標 1 以上
2026	有志チームの発足数		目標 1 以上
2027	有志チームの発足数		目標 1 以上
事業費	2025 年度 : 0	2026 年度 : 0	2027 年度 : 0
継続に向けた事業設計	母体である日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会が率先し、有志チーム発足へ向け活動を継続する。		

事業番号 1 - B)

事業名	協力団体組織を設置		
概要	有志チームをサポートする協力団体を組織する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協力団体組織との連携	構成文化財以外の業種、観光協会や商工会と連携し、地域の魅力を発信し、より一層委員会の地域をブランド化していく。	各構成文化財と自治体、観光協会等
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			
2023			
2024			実績 5
2025	協力団体加盟企業や団体		1 地域 目標 2 以上
2026	協力団体加盟企業や団体		1 地域 目標 2 以上
2027	協力団体加盟企業や団体		1 地域 目標 2 以上
事業費	2025 年度 : 0	2026 年度 : 0	2027 年度 : 0
継続に向けた事業設計	母体である日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会が率先し、協力団体組織設置へ向けての活動を継続する。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	定期的な会議の開催と巡礼をキーワードとした霊場との連携。		
概要	情報共有や協議、事業推進のための会議やレクチャーを定期的に行う。地域の日本遺産とも連携を強化し、当日本遺産の構成文化財を中心に地域の周遊観光を促進するとともに、地域と地域が連携しリアル型日本遺産の特色を生かして日本遺産や、インバウンドによる外国人旅行者の多い世界遺産認定地から地方の文化を啓蒙、啓発し地方の地域活性化を目指す。また、当日本遺産のストーリーを実際に行っている、西国札所会公認先達の増強を図り、公認先達の研修会などにおいて、日本遺産ストーリーの周知に努める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会 会議の開催	構成文化財を活用し日本遺産ストーリーを広く伝えるための事業を実施するための協議を定期的に行う。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
②	日本遺産担当者会議	33 の札所寺院より選出した日本遺産担当者を対象にレクチャーや事業推進のための会議を行う。	西国三十三所札所会
③	地方の巡礼文化西国三十三所観音霊場との連携と巡礼文化として友好締結した海外の巡礼地における相互の啓発活動	西国三十三所観音霊場は日本の最古の巡礼文化である。全国には西国観音霊場を写した霊場が80程あり、霊場会などが存在している。同じ観音巡礼文化を有する組織として連携し、地方の西国写し霊場と共に西国の魅力を啓発し、写し霊場から西国へ、西国から写し霊場へと巡礼文化を体験する観光客の増強を目指す。また、巡礼文化の友好協定を結んだ海外の巡礼地において、日本遺産西国三十三所観音巡礼を啓蒙し啓発する。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
④	日本遺産ストーリーの周知	実際に当日本遺産のストーリーを実践している西国札所会が認定した先達に対して、一層西国巡礼の文化を深めるために研修会を開催し、ストーリーの理解を深める。	西国札所会先達委員会
⑤	ヴィジョンの策定	有志チームの結成後、チームとして長期・中期・短期のヴィジョンを策定する。	有志チームと日本遺産「日本の終活の旅」推進

			協議会
⑥	ふるさと納税に関する リサーチ	各構成文化財地域の行政が実施している ふるさと納税に関するアンケートを実施 し、状況把握。将来的な地域活性化への土 台とする。	日本遺産「日 本の終活の 旅」推進協議 会
⑦	クラウドファンディン グの有効活用	クラウドファンディングを活用した地域 の魅力発信をするとともに、各地域が独自 財源を作り上げていく。	各地域活性 化委員会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	会議・レクチャー等開催数		実績：4
2023			実績：4
2024			実績：4
2025	会議等開催数・レクチャー・連携等		目標値：6
2026	会議等開催数・レクチャー・連携		目標値：8
2027	会議等開催数・レクチャー・連携		目標値：10
事業費	2025年度：1,450,000 2026年度：1,500,000 2027年度：1,550,000		
継続に向けた 事業設計	有志チームを発足し、地域内連携を強化するために、年4回会合を実施。事業の実施状況把握や、協力企業（ワールドコロボID等）によるレクチャーや事業提案等を受ける等、地域の魅力をより活かした事業、また、共通の事業（徒歩巡礼等）の実施を目指す。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	構成文化財日本遺産担当者、及び西国札所会公認先達の育成		
概要	構成文化財である各札所から推薦された日本遺産担当者や西国札所会の公認先達へ西国巡礼関わる講習会、研修会を開催する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産担当者会議	各札所から推薦された日本遺産担当者を対象に、西国巡礼をはじめ、世界の様々な巡礼文化の歴史をレクチャー。巡礼文化への理解を深める。	西国三十三所札所会
②	先達研修会	西国札所会公認先達へ、巡礼の心得、巡礼文化や先達としての意識の向上を図る。	西国三十三所札所会
③	地域活性化委員会毎の地域プロデューサーの確保	戦略立案を実施し、各地域がそれぞれの戦略に応じた地域プロデューサーを確保する。	各地域活性化委員会
④	日本遺産有識者によるレクチャー	日本遺産の有識者のレクチャーにより、日本遺産に関する知識を再度学び、理解を深める。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			
2023			
2024			
2025	日本遺産担当者会議及び先達研修会の開催数		各1回
2026	日本遺産担当者会議及び先達研修会の開催数		各1回
2027	日本遺産担当者会議及び先達研修機の開催数		各1回
事業費	2025年度:1,450,000 2026年度:1,500,000 2027年度:1,550,000		
継続に向けた事業設計	毎年、日本遺産担当者会議及び先達研修会の参加者の増強を目指し、プログラム内容を考える。また札所以外の47団体での日本遺産を活用した周遊観光等、実施例を共有し。各地域の周遊観光の一助となるような取り組みを行う。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	日本遺産ストーリーを伝えるための整備		
概要	来訪者が日本遺産と認識し、ストーリーへの関心・理解を深めるための整備。また協力団体による実際に歩める巡礼道の確認。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ストーリーを伝えるための環境整備	33の札所寺院にてQRコードステッカーやのぼり旗を使用し、日本遺産と分かるよう環境を整備する。また、各札所寺院において文化財の保全や境内施設の美化に努める。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
②	歩みの巡礼文化である西国巡礼道の現状確認	巡礼という歩みの文化の原点である西国巡礼であるが、実際に歩む人はいるものの、現在の巡礼道の現状を把握し将来において歩む巡礼を体験できるよう、まずは巡礼道の現状を把握する。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会とNPO法人西国古道ウォーキングサポート
③	サブストーリーの作成	観音霊験記や御詠歌を活用しサブストーリーを作成。日本遺産西国巡礼のイメージを伝えやすくする。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
④	日本遺産ストーリーを伝える拠点の開設	日本遺産西国巡礼チームの地域において日本遺産を理解できるアンテナ的、拠点施設を開設する。現在活性化委員会が存在する揖斐川町、近江八幡市などは観光案内所など拠点施設開設をする。	有志チームと推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			
2023			
2024			実績値：86%
2025	整備状況の満足度		目標値：90%
2026	整備状況の満足度		目標値：90%
2027	整備状況の満足度		目標値：90%
事業費	2025年度 200,000 2026年度：200,000 2027年度：200,000		
継続に向けた事業設計	WEBサイトにて整備状況についての満足度に関するアンケートを実施。5段階評価「高い、やや高い、普通、やや低い、低い」のうち、普通以上の評価の占める割合を実績値とする。※現在、当協議会の事業予算は西国札所会の予算を推進協議会の予算としているが、官民が連携しての有志チームの発足を機に、各地域において事業費の再検討を行う。		

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号5-A)			
事業名	構成文化財を活用した巡礼体験の実施		
概要	巡礼は歩みの文化であることから、札所から札所へ歩む巡礼体験ツアー等、各種ツアーを実施。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	西国巡礼	巡礼の本質や歴史を実際に体験、体感できるツアーを実施。併せて巡礼道の周辺地域の魅力も味わっていただく。	各構成文化財
②	同日巡礼	西国三十三所の写し霊場と連携。または西国札所同士で連携。巡礼文化の啓蒙啓発のためのツアーを実施。	各構成文化財
③	ヒストリーコラボIDと連携した巡礼	デジタルアートを活用し、若者層と中高年層をターゲットに、住職と一緒に巡礼し、札所の魅力を体験し、自分だけのデジタルアートを手に入れることのできる巡礼ツアーを実施	ワールドコラボジャパンと各構成文化財
④	世界の巡礼道との連携	スペインのサンティアゴ巡礼路、インドの巡礼道、台湾の巡礼道と、府県単位で連携し、事業化出来るよう進めていく。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
⑤	国内における巡れ文化の啓発強化	西国三十三所、坂東三十三所、秩父三十四所の「百観音霊場」の連携強化と、各巡礼地域の魅力を発信するとともに観光事業化する。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
⑥	世界三大巡礼道の連携強化	キリスト教（サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路）、仏教（西国三十三所）、神道（熊野古道）、世界三大巡礼道（路）の友好協定の実現。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			
2023			
2024			1回
2025	構成文化財及び協力団体による観光事業化		2回
2026	構成文化財及び協力団体による観光事業化		5回
2027	構成文化財及び協力団体による観光事業化		10回
事業費	2025年度：200,000 2026年度：250,000		2027年度：300,000

継続に向けた
事業設計

西国巡礼や同日巡礼、ワールド・コラボ・ジャパンの連携によるツアーを実施。若者層、中高年層をターゲットに、事業を継続。

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	歩みの文化、西国巡礼の普及啓発活動
概要	啓発イベントや、構成文化財地域にて西国巡礼の歴史や西国札所の伝承的物語を伝える。日本遺産ストーリーを知る拠点となる施設や施設内コーナーを充実させる。

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産三大啓発イベントや日本遺産認定地でのPR活動	「日本遺産の日」「ツーリズム EXPO ジャパン」「日本遺産フェスティバル」をはじめ、日本遺産認定地でのイベント、構成文化財西国札所寺院のイベントなどに於いてPR活動を実施する。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
②	地域の子供達や地域住民への西国巡礼と伝承文化の啓蒙	西国巡礼には観音霊験記という各札所の霊験を記した物語がある。それを活用し、学校や地域住民に構成文化財の歴史や巡礼文化の講座を開催する。	各構成文化財
③	日本遺産サブストーリーとしての御詠歌の普及活動	西国札所には御詠歌が伝わっているが、その御詠歌は花山法皇が札所に奉納したものである。その御詠歌を活用して西国巡礼を啓蒙する。	各構成文化財
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022		
2023		
2024		
2025	ストーリーを伝える拠点施設との連携数	2 拠点
2026	ストーリーを伝える拠点施設との連携数	5 拠点
2027	ストーリーを伝える拠点施設との連携数	10 拠点

事業費	2025年度：700,000 2026年度：750,000 2027年度：800,000
継続に向けた事業設計	観音霊験記、朱印、写経、御詠歌等、西国札所寺院が継承する様々な伝統や文化を再度確認して活用。子どもや学生、地域住民を対象とした講座やイベントを企画する。

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	SNSでの情報発信		
概要	SNSやQRコードステッカー等を活用し、広く日本遺産「西国三十三所」の情報を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	Xの活用	構成文化財の情報や日本遺産推進協議会、地域の活性化委員会の情報を集め、常に発信しフォロワー数を増やす。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
②	Facebookの活用	構成文化財の情報や日本遺産推進協議会、地域の活性化委員会の情報を集め、常に発信しフォロワー数を増やす。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
③	QRコードの活用	啓発イベントや、普及啓発事業に於いて、スペシャルサイトへアクセスするQRコードを多くの人に読み取ってもらい、ビュー数を増やす。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
④	友好協定先との相互リンクの実現	友好協定を締結した各巡礼地や各政府観光局へ相互リンクを要望。	日本遺産「日本の終活の旅」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			
2023			
2024			
2025	友好協定先との相互リンク数		2
2026	友好協定先との相互リンク数		2
2027	友好協定先との相互リンク数		2
事業費	2025年度：187,660 2026年度：187,660 2027年度：187,660		
継続に向けた事業設計	構成文化財や地域の情報を収集し、積極的に発信。Facebook、Xのフォロワー数を増やす。また、継続的にスペシャルサイトのビュー数を把握する。		